

立命館経済學

第十七卷 第二号

昭和四十三年六月

内 容

論 説

ルール石炭鉱業の展開とプロイセン鉱業法(二)……………川 本 和 良 1

研 究

近代経済学批判の目的と方法，そして近代経済学の性格規定に
ついての若干の考察（その二）……………小 野 進 44
——関恒義著『現代資本主義と経済理論』の所説に関連して——

資 料

調整期における国民経済と対外貿易……………松 野 昭 二 76
ヴェ・エス・ネムチーフ 社会的分業の静学モデル
……………小 野 一 郎 103
共同研究室……………

立 命 館 大 学 経 済 学 会

論説

過渡期における国家資本主義の

諸形態……………手島 正毅

日本の近代化過程における貿易

構造の変化……………清水 貞俊

ルール石炭鉱業の展開とプロイ

セン鉱業法(一)……………川本 和良

戦後炭鉱労働運動の展開過程(2)

……………戸木田 嘉久

資料

自由民権期の府県会闘争(一)……………後 藤 靖

書評

後藤靖著『士族反乱の研究』……………遠山 茂樹

学界動向

発行所 立命館大学経済学会

論説

A・スミスD・リカードオJ・S・ミル

における租税理論の展開(VI)……………箕浦 格良

—古典学派における財政思想(十五)—

研究

近代経済学批判の目的と方法、そして

近代経済学の性格規定についての若

干の考察(その一)……………小 野 進

—関恒義著『現代資本主義と経済理論』

の所説に関連して—

独占と恐慌……………森 啓 子

—自己回復力の喪失について—

資料

中国における国家資本主義 賃金制度

にかんする諸問題……………手 島 正毅

—往復書簡の抜粹—

自由民権期の府県会闘争(二)……………後 藤 靖

—参事院法制局裁定書—

書評

岡崎栄松『資本論研究序説』……………平瀬 巳之吉